

次号予告

特集 地球環境問題への対応

特集にあたって……………茅 陽一(東京大学)

文明論的視点から見た地球環境問題
……………竹内 啓(東京大学)

地球規模環境問題の流れ——その兆候と問題提起
の経緯……………石谷 久(東京大学)

地球温暖化の社会経済影響
……………西岡秀三(国立環境研究所)

地球温暖化対策とその経済的影響
……………山地憲治(電力中央研究所)

熱帯林の破壊とその影響……………熊崎 実(筑波大学)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	高森 寛	青山学院大学
副委員長	高井 英造	三菱石油㈱
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサー ビス㈱
	町原 文明	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	矢部 博	東京理科大学

編集後記●湾岸戦争は、多国籍軍側の一方的勝利により終わりました。今度の戦争では、両軍 100 万の軍隊が対峙し、イラク側は推定15万とも言われる戦死者をだしたにもかかわらず、われわれにとっては何か対岸の火事のような出来事の感がぬぐいさりえませんでした。その原因は何にあるかと言えば、やはり情報操作にあったというべきでしょう。多国籍軍側もイラク側も、徹底した情報コントロールをし、われわれには残酷な人間の死の現場に接する機会が非常に少なかったように思われます。そして、テレビ画面を通しては、ハイテク兵器の高性能を証明するようなミサイル等によるピンポイント攻撃が、あたかもテレビ・ゲームのように写しだされました。その画面を見て、しかもコントロールされた情報のみを聞いていると、戦争の残酷さに思い至るのは至極困難であることは間違いありません。しかし、現実には戦争は残酷なものであり、多数の一般の人々の受けた、またこれから受けるであろう被害は甚大なものです。実態を把握するには、隠された情報をも探り出し、あるいは推定しながら全体像を考えなければなりません。そして、判断

する必要があると思われます●4月というのは、いろいろな所で新しい出発があります。新しい職場に、新しい学校に等、人それぞれ将来への展望をいただいています。かくいう小生も、新しい職場へ移ります。なぜ職場が変わるのか、いろいろ理由はありますが、やはりある無風状況下に長い間いることへの危惧が第1でした。何か刺激があり、お互いにある程度切磋琢磨することを奨励するような雰囲気のある職場で、研究なり仕事をしたと思います。口では皆言いますが、実際にこのような風土を持った職場は少ないものです。しかし、これでは自己の向上も組織全体の向上もありえません。種々のものがぶつかり合い、その中から新しい物が生まれてくるのです。そして、このような動きを潰すのではなく評価するような職場で、また上司の下で、働きたいと思っています。それゆえ、このような風土(文化)をもつことが、働く人に意欲を与え、その組織に対する愛着を持たせることになるということを、組織の上に立つ人は特に肝に銘じておくべきです。(上野哲郎)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成3年4月号 第36巻 第4号 通巻364号

代表者 岡 久 雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代)FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 高 森 寛

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円,郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ